

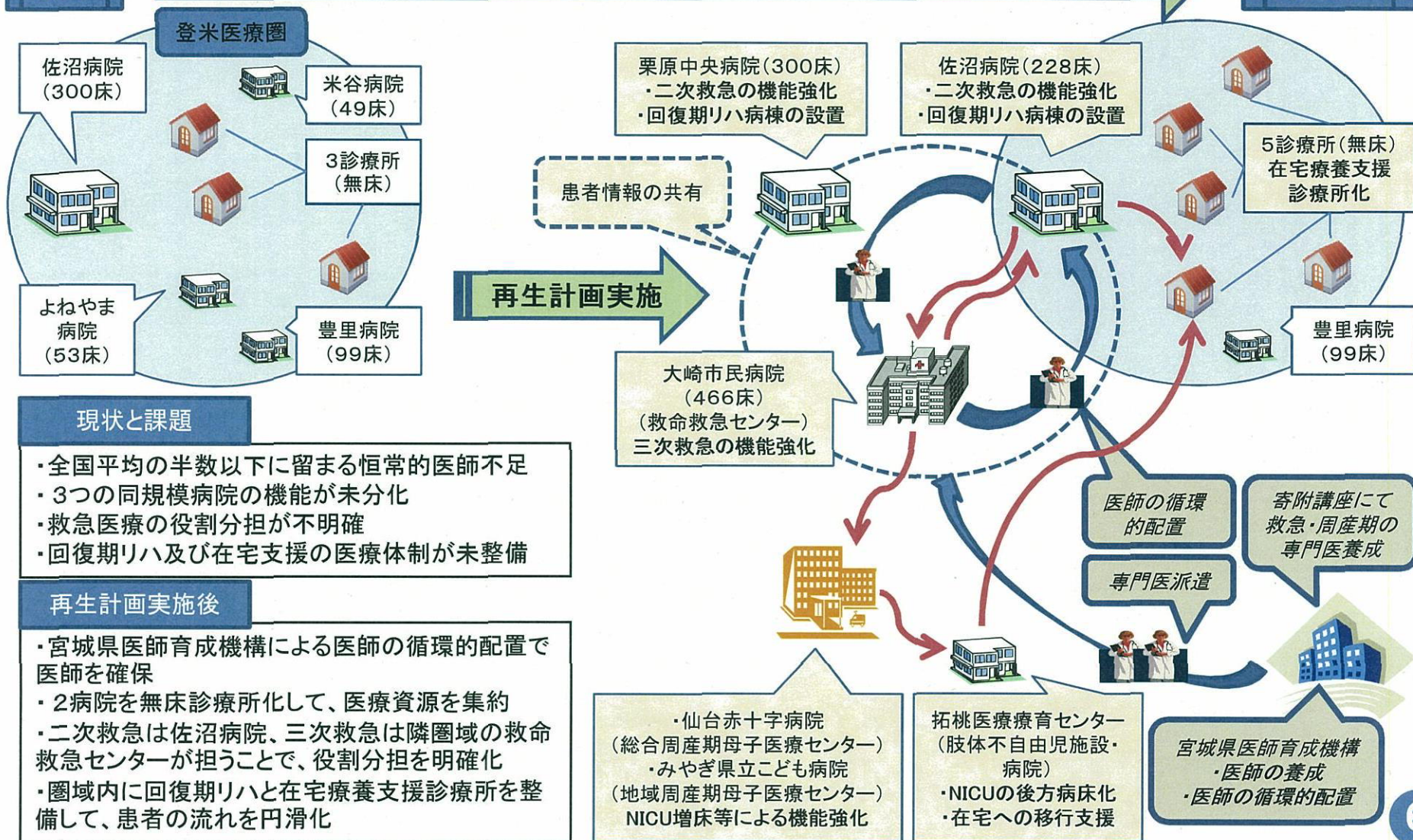
医師不足が深刻な登米医療圏(県北地域)の再生 ～自治体病院の再編・ネットワーク化～



現状

4病院3診療所(501床) → 自治体病院の再編 → 2病院5診療所(327床)

再生後



県北地域における主な事業

救急医療及び周産期医療等の体制整備

- 佐沼病院の二次救急体制強化のための救急センターの整備(264百万円)
- 県北地域の三次救急及びハイリスクを含めた分娩を担っている大崎市民病院の機能強化のための設備整備(500百万円)
- 県北地域産科セミオープンシステム構築の一環として、栗原中央病院に妊婦健診外来を運営するための設備の整備や職員研修の実施(20百万円)
- 佐沼病院及び栗原中央病院における回復期リハビリテーション病棟の整備(70百万円)

医師等の就労環境の整備

- 佐沼病院・栗原中央病院・大崎市民病院における24時間院内保育所の運営等(158百万円)

医療機関の連携推進

- 拠点病院間における患者情報共有システムの整備(100百万円)

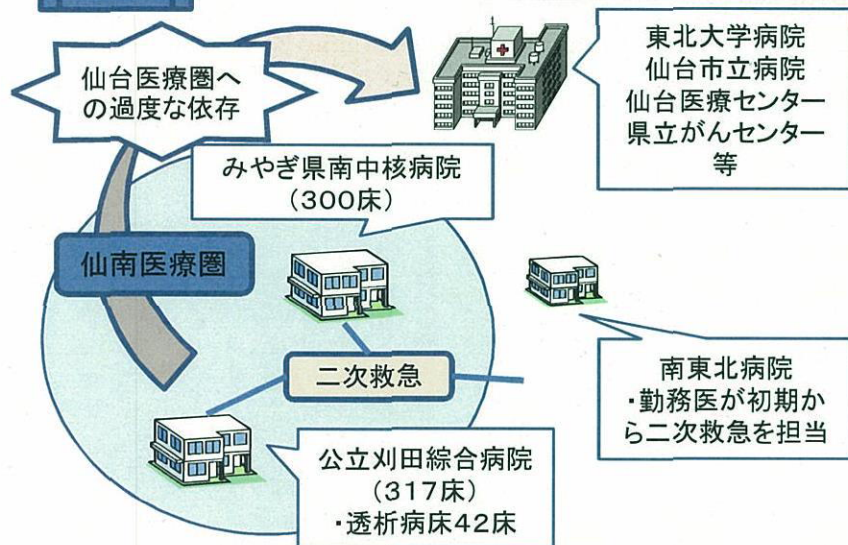
医療機関の再編推進

- 登米圏域における公立病院の再編整備に必要な施設・設備の整備や地域医療連携センターの設置(751百万円)

救急医療体制の完結を図る仙南医療圏(県南地域)の再生 ～病院間の機能分化、郡市医師会との連携強化～



現状



現状と課題

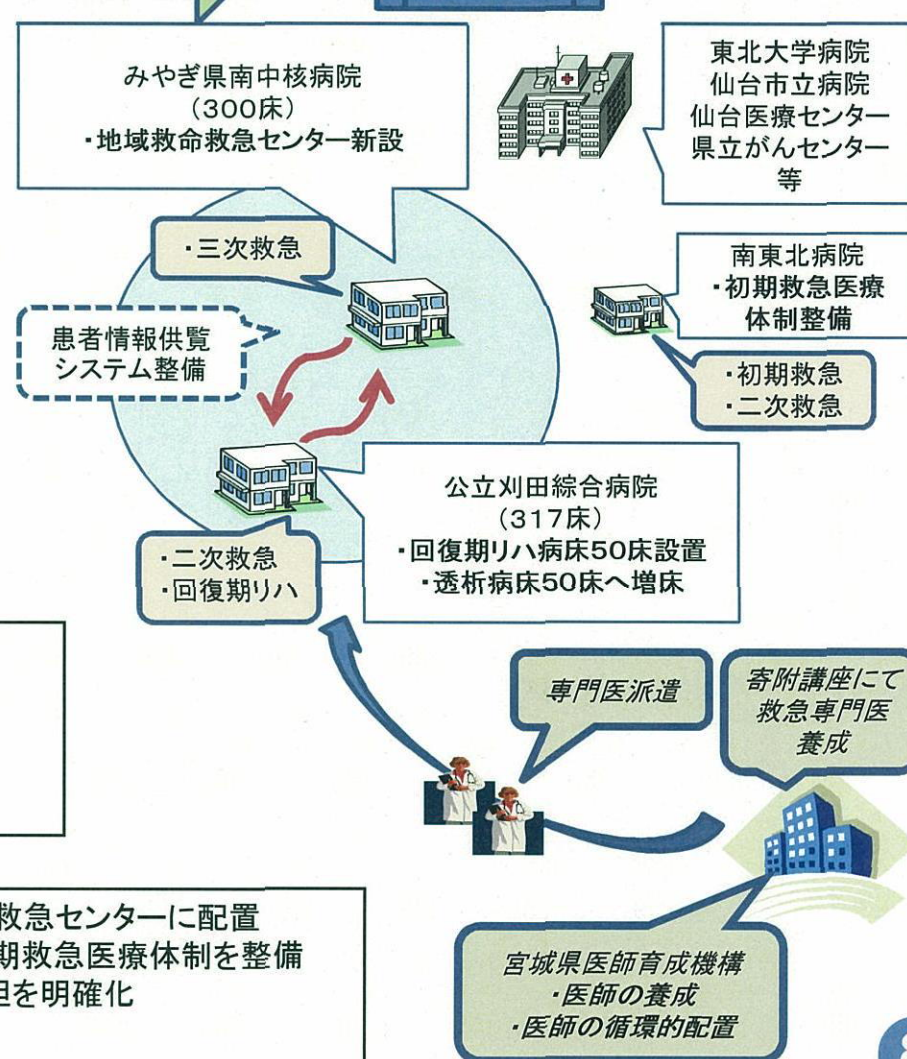
- ・初期救急、三次救急医療体制が未整備
- ・2つの同規模病院の機能が未分化
- ・回復期リハ病棟なし
- ・周辺地域(旧岩沼医療圏)の初期救急医療体制が未整備
- ・仙台医療圏への過度な依存がみられる

再生計画実施後

- ・宮城県医師育成機構により養成された救急専門医を新設の救命救急センターに配置
- ・郡市医師会との連携で、仙南医療圏と周辺地域に平日夜間の初期救急医療体制を整備
- ・二次救急は刈田病院、三次救急は県南中核病院として、役割分担を明確化
- ・刈田病院に回復期リハ病棟を整備して、患者の流れを円滑化
- ・2病院間で患者情報供覧システムを整備し、連携強化

再生計画実施

再生後



県南地域における主な事業

みやぎ県南中核病院の機能強化

- 地域救命救急センターの設置・運営(905百万円)
- 24時間院内保育事業の実施(130百万円)

公立刈田総合病院の機能強化

- 二次救急医療の充実のための施設整備(76百万円)
- 回復期リハビリテーション病棟設置・運営(194百万円)
- 人工透析治療機能の強化のための施設・設備整備(181百万円)
- 第二種感染症指定医療機関として呼吸器・感染症機能の強化のための施設整備(27百万円)
- 看護学生奨学金の拡充と院内保育所の運営(100百万円)

両病院の連携の強化

- 患者情報供覧システムの整備(50百万円)

救急・周産期医療体制の充実

- 開業医の協力による平日夜間の初期救急外来の開設(100百万円)
- スズキ記念病院の周産期医療体制強化のための設備整備(30百万円)